



Azarasi

AsciiDoctor linelapのテスト

Table of Contents

1. asciidoctor-pdf-CJKのテスト	1
1.1. 単純列挙	1
1.2. 順序なしリスト	1
1.3. 順序ありリスト	1
1.4. table	2

1. asciidoctor-pdf-CJKのテスト

1.1. 単純列挙

基本フロー

- 1) システムユーザAは、試験局から供試体ヘリアルタイムコマンドを送信する。
- 2) ミドルウェア Aは、装置ハードウェアからコマンドをTC Flame形式で入力する。
- 3) ミドルウェア Aは、TC FlameからTC packetを復元（デパケット）して、TC packetが正しいことを確認する。
- 4) Software Aは、TC packetをRTコマンドキューに登録する。
- 5) Software Aは、各種コマンドキュー（RT、TL、AT、RQ、STコマンドキュー）に登録されたTC packetについて、優先順位テーブルに基づいたコマンド配信順序のスケジューリングを行う。
- 6) Software Aは、スケジューリングした結果に従い、各種コマンドキューからTC packetを1つ選び、内容が正しいことを確認し、発行する。
（ミドルウェア Aを利用してコマンドを配信できる状態にする。）
- 7) ミドルウェア Aは、TC packetをユーザ機器またはSoftware A自身に配信する。配信先はTC packetのAPIDにより指定する[TBD]。
- 8) Software Aは、発行したコマンドをコマンド履歴として記録する。
- 9) ユーザ機器またはSoftware Aは、配信されたTC packetを受信し、コマンドを実行する。
- 10) システムユーザ Aは、CI-HKの変化を確認することにより、コマンドが実行されたことを確認する。

1.2. 順序なしリスト

・ 基本フロー

- システムユーザ Aは、試験局から供試体ヘリアルタイムコマンドを送信する。
- ミドルウェアは、SMUハードウェアからコマンドをTC Flame形式で入力する。
- ミドルウェアは、TCフレームからTC packetを復元（デパケット）して、TC packetが正しいことを確認する。
- Software Aは、TC packetをRTコマンドキューに登録する。
- Software Aは、各種コマンドキュー（RT、TL、AT、RQ、STコマンドキュー）に登録されたTC packetについて、優先順位テーブルに基づいたコマンド配信順序のスケジューリングを行う。
- Software Aは、スケジューリングした結果に従い、各種コマンドキューからTC packetを1つ選び、内容が正しいことを確認し、発行する。（ミドルウェア Aを利用してコマンドを配信できる状態にする。）
- ミドルウェア Aは、TC packetをユーザ機器またはSoftware A自身に配信する。配信先はTC packetのAPIDにより指定する[TBD]。
- Software Aは、発行したコマンドをコマンド履歴として記録する。
- ユーザ機器またはSoftware Aは、配信されたTC packetを受信し、コマンドを実行する。
- システムユーザ Aは、CI-HKの変化を確認することにより、コマンドが実行されたことを確認する。

1.3. 順序ありリスト

1. 基本フロー

- a. システムユーザ Aは、試験局から供試体ヘリアルタイムコマンドを送信する。
- b. ミドルウェア Aは、SMUハードウェアからコマンドをTC Flame形式で入力する。
- c. ミドルウェア Aは、TCフレームからTC packetを復元（デパケット）して、TC packetが正しいことを確認する。
- d. Software Aは、TC packetをRTコマンドキューに登録する。
- e. Software Aは、各種コマンドキュー（RT、TL、AT、RQ、STコマンドキュー）に登録されたTC packetについて、優先順位テーブルに基づいたコマンド配信順序のスケジューリングを行う。
- f. Software Aは、スケジューリングした結果に従い、各種コマンドキューからTC packetを1つ選び、内容が正しいことを確認し、発行する。（ミドルウェア Aを利用してコマンドを配信できる状態にする。）
- g. ミドルウェア Aは、TC packetをユーザ機器またはSoftware A自身に配信する。配信先はTC packetのAPIDにより指定する[TBD]。
- h. Software Aは、発行したコマンドをコマンド履歴として記録する。
- i. ユーザ機器またはSoftware Aは、配信されたTC packetを受信し、コマンドを実行する。
- j. システムユーザ Aは、CI-HKの変化を確認することにより、コマンドが実行されたことを確認する。

1.4. table

h. 基本フロー

- 1) システムユーザ Aは、試験局から供試体ヘリアルタイムコマンドを送信する。
- 2) ミドルウェア Aは、SMUハードウェアからコマンドをTC Flame形式で入力する。
- 3) ミドルウェア Aは、TCフレームからTC packetを復元（デパケット）して、TC packetが正しいことを確認する。
- 4) Software Aは、TC packetをRTコマンドキューに登録する。
- 5) Software Aは、各種コマンドキュー（RT、TL、AT、RQ、STコマンドキュー）に登録されたTC packetについて、優先順位テーブルに基づいたコマンド配信順序のスケジューリングを行う。
- 6) Software Aは、スケジューリングした結果に従い、各種コマンドキューからTC packetを1つ選び、内容が正しいことを確認し、発行する。
（ミドルウェア Aを利用してコマンドを配信できる状態にする。）
- 7) ミドルウェア Aは、TC packetをユーザ機器またはSoftware A自身に配信する。配信先はTC packetのAPIDにより指定する[TBD]。
- 8) Software Aは、発行したコマンドをコマンド履歴として記録する。
- 9) ユーザ機器またはSoftware Aは、配信されたTC packetを受信し、コマンドを実行する。
- 10) システムユーザ Aは、CI HKの変化を確認することにより、コマンドが実行されたことを確認する。